

**明けましておめでとうございます。**多事多難だった2011年を送り、2012年には新しい波がおこります。新事業アメニティ・アカデミーが創設されます。また英国ナショナル・トラストの旅でスコットランドを訪問します。東日本大震災の被災者支援活動はもちろん継続して行います。一方駒井家住宅からは手を引きます。新しい年が幸多い年でありますように切に祈ってやみません。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

**お知らせ**

- ・新年会 2012年1月9日(月・祝) 草志舎
- ・歴史的建築物研究会 2012年1月21日(土) 西宮市・甲子園地区(すでに定員に達しました)
- ・歴史的建築物研究会 2012年2月18日(土) 神戸市・旧居留地
- ・町並み研究会 2012年3月10日(土) 大阪市・住吉地区
- ・英国ナショナル・トラストの旅 2012年6月10日～19日 スコットランド

**2012年度の新規事業****アメニティ・アカデミーの創設**

2012年度の新規事業としてアメニティ・アカデミーを創設することになりました。院長には宮田満雄関西学院元院長(当協会理事)をお迎えします。内容としては、アメニティ 2000 協会の活動の基盤となる理念を多くの方々によりよく理解していただくこと、セミナーを開講していきます。初年度は原則月1回で、上期は次のような予定です。

**\*ヴォーリス建築再見**

- 時期 2012年4月から9月までの全5回(原則第二土曜日、8月は休講)  
講師 山形政昭大阪芸術大学教授、石田忠範一粒社ヴォーリス建築事務所元所長(当協会理事)  
会場(予定) ヴォーリス六甲山荘、関西学院、神戸女学院、大阪教会、草志舎

ヴォーリス建築については第一人者のお二人によるセミナーで、建物の見学も行います。質の高い内容となると大いに期待されます。ご案内を楽しみにお待ちしております。

**駒井家住宅についてご報告**

駒井家住宅の持ち主である(財)日本ナショナルトラストから協働関係を終結するとの一方的申し出があり、2012年度からは駒井家住宅の協同運営は解消されます。それに対してアメニティ 2000 協会は次のような意見書を送りました。

＜駒井家住宅の共同運営事業は、公開再開に向けて尽力願いたいとの懇請を受けまして、2008年4月から今までの2年半一翼を担ってきました。その間、発揚の原点は、「ナショナル・トラストの理念にもとづき、双方が連携して活動の普及・発展に努める」(業務提携合意書1項)という高邁な精神をもって、ナショナル・トラスト運動の推進及びヴォーリス建築の顕彰という社会的な貢献を担う試金石になればという一途な想いでした。

しかしながら、今般協働関係の終結を一方的に通告されたことによって、唐突に訪れた終局は、「文化財の保存方法のひとつの可能性を摘み取る挫折の先例と評価される遺憾な事態である」との見解を、衷心の行為が一瞬にして水泡にきした関係者の空虚な心情を込めて、ここに表明します。＞

ここに至った背景には、駒井家より寄贈された文化財である駒井家住宅を、京都の代表的なヴォーリス建築の名所としていく観光資源重視の運営方針があるように思われます。文化財の保存・公開ということで共同運営をしてきましたが、その理念が変質していくとすれば私たちにとって大変残念なことです。

**予告1****英国ナショナル・トラストの旅～スコットランド編**

お待ちせしました。スコットランド旅行の案内を同封いたします。スコットランドといえば、あなたはどんなイメージをお持ちでしょうか。ウイスキー、タータンチェックのキルト、ネッシー・・・ 本当はどんな国なのか、ぜひあなたの目で確かめに、さあ、ご一緒しましょう！

月日 **2012年6月10日～19日(7泊9日)**

参加費 会員 397,000円 一般 407,000円 成田発は1万円プラス

詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

## ご報告1 町並み研究会～和歌山 12月11日(日)～12日(月)

すばらしい二日間でした。天神崎の玉井業務担当理事、熊楠顕彰館の橋本さん、湯浅の半邊さん、黒江の菖蒲さん、それぞれ案内をしてくださった方々ですが、皆さんのその土地、人への愛情がひしひしと感じられるお話ぶりでした。日本のナショナル・トラスト運動の草分けである天神崎では、子供たちを対象にした活動をしたり、運動を継続するための努力を今も続けておられます。その熱意に心うたれる訪問でした。

天神崎の磯で生き物をさがす→



### 予告2

### 歴史的建築物研究会～神戸・旧居留地を訪ねる

2月の歴史的建築物研究会は神戸市の旧居留地を歩きます。JR線路の南側には神戸開港以来ミナトコウベの発展を見守ってきた建物がまだ多く残されています。持ち主は変わってもまだ現役で活躍している建物です。神戸市の名物ガイド森山芳子さんの名調子を聞きながら、一日を過ごしましょう。

月日 2012年2月18日(土) 集合 午前10時 神戸市役所新館ロビー

参加費 会員1,000円 一般2,000円(昼食代別途各自負担)

昼食 旧居留地十五番館にて ハヤシライス・セットまたはビーフカレー・セット(1,800円)

定員 30名

締切 定員に達し次第締め切ります

詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

### 【コラム】

### 隠し味

清水 彬久

私たちが食する料理は、季節の素材を選び、料理人がそれを活かして味付けを行います。その時より深みのある味を生み出すための工夫として隠し味を加える絶妙な料理法があるようです。ぜんざいに入れる塩などはその例でしょう。

昨年12月は、東日本大震災発生直後のため順延していましたが和歌山行きの町並み研究会を一泊二日の日程で行われました。実りの多い行事となりましたが、私にとっての大きな収穫は、日本のナショナル・トラスト運動の先駆けとなった天神崎のある田辺を再訪し新たな発見ができたことです。その「天神崎を大切にする会」と創設者外山八郎については、『私たちの先駆者』(第2・3回)で述べています。今回は、その活動の後継者である玉井理事から現地で詳細な説明を受け、今迄の全身全霊で尽力されてきた偉大な業績を改めて確認することができました。そして、この運動には外山の精神的支柱になった地元先人の存在のあったことを学べたことです。そのことで、この運動が突然起ったのではなく、生態系の保護の重要性を訴えた逸材が地下の水脈のように繋がっていたことを教えられたのでした。その忘れてはならない先人とは、一人が南方熊楠(1867-1941)であり、もう一人が時岡隆(1913~2001)です。かの熊楠は、田辺を拠点に博物学・粘菌等の幅広い分野で数々の研究成果を世界に発信し続けた大学者です。明治末には日本の先がけとなる自然保護のための運動を始め、地元神島の原木を守る活動は今も地元住民によって引継がれています。一方の時岡は、あの駒井家住宅の主であった駒井卓博士のお弟子であり、地元で海洋生物の研究で業績のあった方です。島島等の自然保護にも貢献され、外山の運動を陰に陽に支援をされています。目の当たりにする先人の生きざまは、孤軍奮闘する外山にとって可能性を見据えることのできた一筋の光になったに違いありません。天神崎が優れた天然素材だとしますと、「天神崎を大切にする会」は料理人として素材に本来もつ価値を見抜き、地域にとって掛け替えのない地域資産として保護していくという味付けの役割を担いました。そして、見過ごしてならないのが隠し味に先人の力を得ていたことなのです。そこには風土の織りなす重みがあります。

それでは、アメニティ2000協会に隠し味があるとすればどのようなもののでしょうか。年頭にあたり皆さんで一度考えてみていただくのも意義があることかもしれません。

### 予告3

### 町並み研究会～大阪・住吉地区

3月の町並み研究会は大阪市の住吉地区を訪問します。鎮座1800年以上という住吉大社あり、明治・大正の邸あり、昭和初期の長屋あり、ヴォーリズ設計の私邸あり、と変化に富んだ地域です。詳しくは2月号でご案内いたします。日取りをカレンダーにチェックしておいてください。

月日 2012年3月10日(土)

我らが六甲山荘の設計者ヴォーリスの業績を語るとき、忘れてはならないのは妻満喜子の存在である。ヴォーリスの伝道活動を支え、自らも近江八幡で、当時の日本では未知の世界だった幼児教育を行い、夫の両親を看取り、夫の死後もその仕事を続けるために全力を注いだ。身分・貧富に関係なく子供たちを、そして周囲の若者たちを育てた真の教育者（種まく人）であった。本書はその一柳満喜子の生涯を少女時代から追った力作である。

満喜子の父は一柳子爵、元の小野藩主である。つまり満喜子は華族という身分にあった。明治の日本ではこの「身分」は現代の私たちの想像以上に人間を縛るものだったようだ。特に「華族の娘」ではない自分らしい生き方を選びたい彼女にとっては逆差別となって、大きなカセとなった。これを跳ね返そうとする意地が「自分にも他人にも厳しく」律する生き方となったのではないか。伏し目ではなく、いつも相手の目をまっすぐに見据えて話すという姿に満喜子の生き方が現れているように思う。

外国人であるヴォーリスとの結婚のため華族の籍を抜いて、ようやく自立した人間になれたと実感したが、封建色のつよい近江八幡で、女性であること、キリスト教の伝道者であること、戦争中は敵国人と見なされたことなど、その人生は次々と嵐に見舞われる。だが夫ヴォーリスとは生涯変わることはない愛と信頼で結ばれていたし、よき理解者、激励し、叱咤し、共に泣いてくれる友人もいた。題名の「負けんとき」は母親のように慕った大同生命社長夫人廣岡浅子の言葉である。「勝たんでもいい、負けたらあかん、負けんとき。あんたならきっとやれる。」一呼吸余裕のあるこの励ましの言葉を満喜子は胸にきざんで、自分にも人にも繰り返している。

生前の満喜子を知る人々からは「厳しい人だった、怖い人だった」という声がかきこえている。本人も「自分は岩のように堅く怖いと思う」と述懐していた。終戦後のことだが、軽井沢で開いていた疎開児童のための学校に貞明皇太后（大正天皇の后）が来られた。その場で満喜子に「上に立つ者が岩にならねば、下の者はぐらついて軸が定まりません」と語られたという。彼女の生き方に対する深い理解と肯定の言葉であった。「負けんとき」という柔軟さとぶれない強さをあわせ持つて生きた女性だった。（新潮社刊）

<次回は船井美彦さんをお願いします>

## ◇◆◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

### 森さんの歌を聴いて

常陰 朗雄

今回のコンサートの冒頭、スクリーンに流れた3月11日の映像を見たとき、あの日、ただただテレビ画面に釘付けになっていた時の記憶が鮮やかに甦りました。

その刹那、森さんの透明で伸びやかな歌声がカトリック夙川教会に広がるのを聴き、何だか胸が一杯になりました。時間が3月11日に逆行し、今まさしく被災されているスクリーンの向こうの方々へ鎮魂の歌が流れている、そんな印象を受けたのです。

森さんが東北の避難所を訪れた際撮影されたニュース映像もスクリーンで流れました。避難所の年輩女性が「地震でも、津波でも、涙が出なかったのに、あなたの歌を聴いて初めて涙が出た」と語る様子が印象的でした。

悲しい出来事は忘れることはできないかもしれないけれど、少しずつ時の流れがその傷にかさぶたを張ってくれる。でも涙も出ないほどの悲しみを経験したら・・・ぽっかり胸に穴が空いてしまったら・・・まずは涙を流して、感情の潤いを取り戻す必要がある。心が前に踏み出すきっかけは、飢えを満たす訳でも、暖が取れる訳でもない「歌」こそが、その役割を担えるという不思議。

森さんの歌声を聴くのは今回で3回目です。森さんの歌声は何も知らずに聴いても勿論美しく心に響きますが、阪神・淡路大震災で弟さんを亡くされた事を深く受け止め、その後何度も大規模災害の被災地に赴き歌っていらっしやる事を知ると、一層その歌声の持つ優しさと強さ

に心打たれます。

阪神・淡路大震災を経験した地で、森さんの歌声を聴くことが出来たこと、またほんの少しばかり東日本大震災の支援に役立てたことをありがたく思っています。



### 芦屋市山手・六麓荘地区を訪ねて

森田 邦枝

はじめて歴史的建築物研究会に参加しました。丹波市の山間部の自宅（いまだに携帯の電波は圏外！）を出発し、思ったよりはやく約二時間半後、阪急芦屋川駅に降り立ちました。ここが阪神間でも定評のある芦屋市の住宅地かと思うと急な坂道までもが素敵に思え、どきどきしながら師走の一日、会員の皆様について歩きました。大半が個人住宅のため、門前にて理事長から簡潔な説明を受け、塀外からしばし外観を拝見してはすぐ次に移動する行程です。個人住宅の調査は気も使うし、詳細を把握するのは難しいと思いました。立派な邸宅ばかりの並びにあっても、歴史的建築物のたたずまいは静かで気品があり本当に好ましいです。また、同行されたヴォーリ

ズ設計事務所の方が内井昭蔵氏設計の邸宅に気づかれ説明いただいたり、移動の道中も常に興味ぶかい邸宅が続き、わくわくしどおして足元に目をおとす暇はありませんでした。

午後は六麓荘の町内会館（六角形の建物・名前は六麓荘倶楽部）にて川口様より六麓荘について詳しく説明いただきました。東洋一の住宅地をめざして開発された先人の志が受け継がれ、住民の景観を維持する意識が非常に高く、地区計画が制定され、六麓荘が六麓荘である所以のまちづくりをされています。個人的には、昭和3年当時から電気・上下水道・電話等が地下埋設で整備されていたことが驚きでした。実は私が暮らす地域では下水道が整備されたのは平成十二年です。インフラの整備で

は実に約七十年もの差があったのです。当時の経済力と先見性、審美眼には敬服するのみです。また、この環境を維持してこられた住民の努力の大きさ、意識の高さに気づき、けっしてまねはできない特別な地区ではありますが、独自のまちづくりの一例として勉強になりました。



.....

**リーフレットをお送りします**

12月に改訂した新しいリーフレットを同封しました。お知り合いに当協会をご紹介くださる時にお使いください。余分にお入用の方はご連絡いただければお送りいたします

<会員からのご案内>  
**一艸の会 2012 パーティのご案内**

堀尾早苗さん主催、タイ王国大阪領事館後援の恒例のチャリティ・パーティです。  
 ランチ、バザー、音楽や舞踏のステージと盛り沢山な内容で、楽しい時間を過ごし、収益はタイの貧しい子供たちに学校や図書館をつくるジニー基金に寄付されるという有益なパーティです。

日時 2012年3月2日（金）  
 場所 神戸外国クラブ

参加費 7,000円  
 お問い合わせ・お申し込みは堀尾さんまで

町並み研究会（紀州路）



紀州格子の美しい湯浅の町並み



紀州漆器の実演（黒江）

紀州格子の美しい湯浅の町並み

漆器制作の実演をみせてもらう（黒江）